人　権　通　信

２学期末号　平成18年12月18日発行
香川県立坂出高等学校：人権・同和教育部

11月の半ばに、文部科学大臣から子どもと、大人向けにそれぞれメッセージが出されましたが、今日いじめの問題は大きな社会問題となっています。本校でも１年生の学年団集会で、生徒といじめ問題について考えてみました。その参考としたのは、『葬式ごっこ　八年後の証言』（豊田充著　風雅書房）という本です。この本は、「中野富士見中学いじめ自殺事件」の８年後を取材したものです。

1986年２月、東京都中野区の中学生が級友らによるいじめを苦に家出をし、盛岡駅駅ビル地下街トイレで自殺した。被害者の少年の受けたいじめのなかでも、多くのクラスメイトと一部教員によって行われた「葬式ごっこ」は人々に強い衝撃を与えた。少年の机の上には、あめ玉やミカンが並べられ、花や線香も添えられていた。そして少年の写真の横には「追悼」色紙がおかれ、そこには級友の寄せ書きや「やすらかに」といった担任を含む４人もの教員のメッセージや署名もあった。

被害者の少年の級友が、８年前を振り返って、当時の心情を語っており、いじめ問題を考える資料として、現在も注目されています。この本から、当時の級友たちの声を拾ってみました。

「当時のいじめをどう思うのか？」

・テレビのバラエティー番組で、芸人をからかっているノリでやっている。遊びのつもりだった。
・からかいの延長だとどこまでやると傷つくのかわからなかった。
・日常的な悪ふざけやからかいが多すぎて、感覚が麻痺していた。
・まわりのみんなも流されていった。

「いじめを生んだ環境は何だったのだろうか？」

・つらい目に遭っている人を助けようとしない環境が少年を追い込んだ
・まわりに関心を持ちたくないという生き方が問題だった。
・自分を受け入れてくれる場所がない。どこか裏切られるのではと思っている。この疑心暗鬼の感情から、いじめを見て見ぬふりをした。
・自分を大きく見せたいのでいじめに加担した。

「今の生徒に何かアドバイスすることはないか？」

・人の生命を支えることは、相手に共感を持って話を聞くだけでも可能だし、楽しく優しい想い出をたった一つつくるだけでも可能になるのではないか？

「事件を通して考え方は変わりましたか？」

・今怖いものは何もない。自分が弱い人間であることを隠す必要がなくなったからだ。
・人間自体を軽く見るとか無関心でいる人、人間を大切にしないこととか人間に関心を持たないことに怒りを感じる。

今日の状況に通じるところがうかがえます。生徒たちが、なかまを作り、いじめを傍観せずに指摘できるいじめを許さない集団となるように、学校でも指導に力を入れていきます。

ご意見や情報がありましたら、ご連絡ください。
坂出高校（人権・同和教育担当：真下拓也）
TEL：０８７７－４６－５１２５
FAX：０８７７－４６－５８９６

「2年生の取り組み」

２学期の人権・同和教育は、「部落の歴史」を学習しています。

　現在も残る同和問題を解決するためには、差別の現実を深く学ぶとともに、差別が生まれた経緯を客観的に理解することが必要です。また、過去の過ちを振り返ることで、我々が人権を尊重し生きていくヒントが見えてきます。２学期と３学期の人権・同和教育ホームルームでは、現代に至るまでの「部落の歴史」を学んでいきます。

　この授業を通して、私達は人間が人間を差別することの愚かさを確認し、差別をしない・許さない強い心を持つことの大切さを学びたいものです。折に触れて、ご家庭の方でも機会あるときに話し合っていただきたいと思います。

①１時間目は部落の起源から、江戸時代の様子を学習しました。

　部落の起源については、今までは、江戸時代の身分制度に求める政治起源説が使われてきましたが、近年の部落史の研究によって、部落の起源は鎌倉時代や室町時代の頃までさかのぼることができることが指摘されています。河原に住み着いて、死牛馬の処理をしていた人が、その起源の一つと考えられています。人びとは、死牛馬の処理をする人を特別視し、排除するようになります。江戸時代の身分制は、このような仕事をしていた人たちと農民と区別し、死牛馬の処理や警察の手助けなど特別な役目を与えました。また、明確に区別されたことで、差別心も生まれてきました。江戸時代の半ばには、身分秩序が崩れ始めたので、各藩では身分統制令をだしました。これが、差別的な内容であったために、ますます人々の差別心が強まりました。

②２時間目は明治時代に解放令が出されてから、水平社の設立まで学習をしました。

　解放令によって、制度としての身分は廃止されたのですが、差別はひどくなります。政府が対策を行わなかったこともありますが、人びとの差別心も差別を助長しました。江戸時代には、身分が違い結婚できない、住むところが違う、死牛馬の処理など特別な仕事をしていた人と認識していたのに、身分・職業とも平民と同じになったのですから、実感として受け入れられないのが事実でした。

　解放令以降、差別が厳しくなっていく中で、被差別部落の人たちが水平社を設立します。そこで採択された「水平社宣言」は、長い間、差別と迫害に耐え抜いて生きてきた被差別部落の人々が、自らの力によって人間として生きる権利を誇り高くうたいあげ、水平社運動が人間の尊厳、自由・平等の理念に基づいて、すべての人間の解放をめざすことを明らかにしています。「人の世に熱あれ、人間に光りあれ」で締めくくられたこの宣言文は、時代を越えて今も私達に大きな感動を与えてくれます。1948年国際連合によって世界人権宣言がなされましたが、同じように全人類の解放をうたった画期的な人権宣言でもあります。

（真下拓也が担当しました）